

4 摘 要

1 1964年から最近の新品種の青森県南部地方における、適応性に関する試験を実施している。

2 試験は、ふじ、陸奥、レッドゴールド等8品種を供試して行なったが、5カ年の累計収量は恵が最も多く、次いでふじ、レッドゴールド、ゴールデンの順

であった。

3 一果当り重量は、陸奥が最も大きくついでレッドキング、東光、恵の順であった。

4 樹の生育状況は、ふじが最も良好であった。

5 大穴、小穴区の比較では、樹の生育状況は大穴区がややまさる傾向を示したものの、収量では一定の傾向がみられなかった。

リンゴスパータイプの特性について

藤 根 勝 栄

(岩手県園試)

1 ま え が き

最近のリンゴ栽培は、早期多収・良品生産・省力化という見地からわい性樹への関心が非常に高く、現在スパータイプを中心に動き始めている。

スパータイプが本格的に試作されてから年数も浅いためまだ不明な点が多いが、当场8年生までの生育状況を述べてみたい。

2 特 性 調 査

1 品 種

現在スパータイプはデリシャス系とゴールデンの系統があり今回の調査ではデリシャス系がウエルスパーおよびレッドスパー、ゴールデンではスタークスパーゴールについて調査した。

2 生態調査

デリ系スパータイプでは発芽期が標準スターキングより2〜3日早いが発葉期および満開期ではほとんど差がみられなかった(第1表)。

第1表 生態調査 (昭45年)

調査項目 \ 品 種	レッドスパー	ウエルスパー	スターキング
調査樹樹令の別 (苗木高接)	7年生苗木 (実生台)	7年生苗木 (実生台)	12年生苗木 (丸 葉)
発芽・展葉・満開期	N/18 N/23 V/14	N/19 N/22 V/13	N/21 N/24 V/14
新梢長・葉数	39.2 cm 33枚	42.8 cm 27.8枚	36.3 cm 22.3枚
結果樹令・生産力	3 年 多	3 年 多	6 年 少
病虫害・葉害	斑落少, 粗皮病微	斑落少, 粗皮病微	斑 落

樹の生育状況は非常に旺盛で、特に若木では枝が斜立する性質があり樹姿は筍状となつてなかなか開張せず、樹高に比較し樹幅が狭い。主幹より発出する枝の角度も一般に狭い。

枝条は節間が短く、短果枝の着生が多く立枝にもよく結実する。樹令が進むにつれて着果量の増大がみられるようになり、樹勢が落ちつき7〜8年ごろになると太い枝でも開張下垂してくる(第2表)。

果実の着果状況を見るとデリシャス系でも3〜4年目から3〜5個の結実がみられ、その後樹令が進むに

つれて著しい収量の増加がみられ非常に豊産性である。

果実の大きさは1果重300g〜350gぐらいで、スターキングよりやや小さめであるが、玉ぞろいは非常に良く果形はスターキングに似ている。

第3表は当场におけるスパータイプ品種別樹令別の収量である。2〜3本の独立樹、見本栽培の成績で、これを10a当りに換算することは無理と思われるが、可能性の一端を示すためにあえて10a当りの収量も出してみた。

第2表 スーパータイプの樹令別大きさ

樹令	品種	レッドスーパー		ウェルスパ		スタークスパール	
		樹高	樹中	樹高	樹中	樹高	樹中
2年	生	1.80 <i>m</i>	0.60 <i>m</i>	1.35 <i>m</i>	0.50 <i>m</i>	1.45 <i>m</i>	0.50 <i>m</i>
3年	生	2.90	1.50	2.35	1.28	2.00	1.45
4年	生	3.17	1.80	3.18	1.98	2.60	1.61
5年	生	3.73	2.47	3.65	2.55	3.11	2.28
6年	生	4.30	3.15	4.13	3.10	3.53	2.93
7年	生	4.85	3.80	4.60	3.65	4.00	3.60
8年	生	4.35	4.23	4.35	4.68	4.00	3.90

第3表 スーパータイプの樹令別収量

樹令	品種	レッドスーパー				ウェルスパ				スタークスパール			
		1樹当り収量		10a当り収量		1樹当り収量		10a当り収量		1樹当り収量		10a当り収量	
		着果数	重量	重量	箱数	着果数	重量	重量	箱数	着果数	重量	重量	箱数
3年	生	3	Kg 0.9	Kg 54.0	3.4	5	Kg 1.7	Kg 91.8	5.7	16	Kg 5.6	Kg 302.4	18.9
4年	生	6	1.9	102.6	6.4	11	3.5	190.1	11.8	64	21.1	1,139.4	71.2
5年	生	53	16.4	885.6	55.4	67	20.8	1,123.2	70.2	130	45.5	2,457.0	153.6
6年	生	163	53.8	2,905.2	181.6	171	51.3	2,770.2	173.1	225	84.2	4,546.8	284.2
7年	生	227	69.0	3,726.0	232.9	231	69.5	3,753.0	234.6	284	101.1	5,459.4	341.2
8年	生	327	101.4	5,577.0	309	340	105.4	5,797.0	322.1	394	137.9	7,584.5	421.4

注. 10a当り換算収量, 3m×6m, 55本植の場合, 1箱は18Kg入り

3 果実の品質

デリシャス系のスーパータイプはいずれの品種も早期着色系で, 生育肥大中の8月中～下旬ころから始まり, 収穫時には全面鮮紅色または暗紅色となる。

味についてみると同時期に採取したスターキングより劣り, 特に収穫時における糖分は1～2%低いようである。

したがって早採りすれば, 未熟で味が悪いことになるので早採りは慎まなければならない。スーパータイプはスターキングと異なり, 充分熟させても蜜の入り方も少ないなど貯蔵力は高いようであり, 貯蔵越年後の食味ではスターキングにまさるとも劣らないような味である。

第4表 果実内容調査(昭和45年度果実)

調査項目 品種	収穫月日	調査月日	1果平均重	硬 度	糖 度	酸 度
スターキング	10月19日	10月19日	320 <i>g</i>	15.1	13.4	0.28
		10月30日	368	13.0	12.3	0.40
		1月6日	355	13.3	13.3	0.28
		2月20日	292	—	12.3	—
ウェルスパ	10月19日	10月19日	302	16.8	11.9	0.26
		10月30日	300	14.3	11.4	0.35
		1月6日	323	12.1	12.5	0.26
		2月20日	290	—	12.6	—
レッドスーパー	10月19日	10月19日	312	15.0	11.5	0.27
		10月30日	296	13.1	11.4	0.27
		1月6日	317	11.3	11.4	0.27
		2月20日	291	—	11.2	—

第5表 食味について

品 種	収 穫 月 日	調 査 月 日	
ウェルスパ	10月19日	10月19日	澱粉臭, 渋味ともややあり, 甘味少なく, 食味悪い。
レッドスパ	10月27日	10月30日	かすかに澱粉臭を感じるものもあるが, 食味やや良い。
	〃	1月 6日	
		2月20日	甘味多く感じ, 多汁で食味かなり良好。
スターキング	10月19日	10月19日	蜜入り多く甘味あり, 多汁で食味非常に良い。
	〃	10月30日	
		1月 6日	
		2月20日	甘味多く多汁で食味良好である。

4 整枝剪定

スパータイプは普通樹より樹形小さく, その枝条は簪状で直立枝が多く, それでいて3年目ころから開花・結実がみられる。したがって普通樹と異なり早いうちから生産しながら樹形構成を図ることになるが, 3~4年ぐらいまでは樹形構成を主体とし, 樹冠の拡大を図る。なお, この場合に1本の独立樹として育てるか, あるいは今後の方向として考えられている並木植として密植するかによっても異なるが, 筆者等は現在8年生樹については独立樹(幼木については並木植えについて検討している)として仕立てている。

独立樹の樹形は主幹形とし, 骨組みとなる側枝(成り枝)は, 植付け後2~3年目で3~4本くらい, 5~6年で6~8本, 現在8年生で10本ぐらいの側枝が配置されている。

剪定にあたっては間引きを主体とし, ところどころに発出した新梢なども切り捨てることなく短截するなどし, 樹冠内部まで充分光線が入るよう心がけると同

時に, できるだけ主幹近くまで結実するよう配慮している。4~5年まで斜立していた枝条も現在では開張し始めており, 新梢の伸びなども短小となり, その本数も1~2本の発生である。結実の増加とともに樹勢の落ち付きが目立ってきている。

3 ま と め

スパータイプの性状についてはまだまだ判然とせず解明すべき点が多い。

たとえば栽植構成についてみても10a当りの栽植本数は何本が適当か(55本(6×3m)~166本(4m×1.5))について現在検討中), その仕立法は並木植かどうか, あるいは丸葉, 実生台に変わる台木の検索, 肥培管理, 果実の品質特に食味についての検討など問題点が多い。しかし, 早期結実, リンゴ樹のわい化による省力, 早期着色型であるなど利点は非常に多く, 今後のリンゴ栽培の方向であるところからさらに検討を続けて行きたい。

リンゴ夏期剪定に関する調査

第1報 夏期剪定樹における結実母枝の性状について

花田 誠・三上敏弘・小原信実・佐藤昌雄

(青森県りんご試)

1 ま え が き

りんごの剪定は冬期に行なうのが一般的であるが, 永沢鶴松氏(青森県弘前市笹館)は冬期剪定に夏期剪定を併用して, 樹を人為的にわい化する技術を開発し注目されている。永沢氏の夏期剪定樹の特徴は, 冬期

剪定だけ行なった樹に比較して収量が多い。多収の要因として樹形構成の相違, 頂芽の着生状態および数に差異があったためと考えられる。そこで, これらのことを解明するために, 夏期剪定樹における結実母枝の性状について調査した。

なお, 同氏の夏期剪定法は, 冬期剪定で短・中果枝